



安川電機 (6506)

2012年3月期決算説明会:要約版 (2012年4月23日)

2011年3月21日～2012年3月20日

取締役社長 津田 純嗣

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

目次

1. 2011年度決算について

- ・ 2011年度連結決算のポイント
- ・ 2011年度連結セグメント別業績
- ・ 営業利益増減要因分析（2010年度 ⇒ 2011年度）
- ・ 事業セグメント別売上高構成比（2010年度 ⇒ 2011年度）
- ・ 仕向先別売上高（2010年度 ⇒ 2011年度）
- ・ 仕向先別売上高構成比（2010年度 ⇒ 2011年度）
- ・ 2011年度における主な取り組み

2. 2012年度見通しについて

- ・ 2012年度の事業環境見通し（2011年度下期 ⇒ 2012年度上期）
- ・ 2012年度連結業績見通しのポイント
- ・ 営業利益増減要因分析（2011年度 ⇒ 2012年度）
- ・ 半期別売上高・営業利益推移（2011年度～2012年度）
- ・ 2012年度における重要方策

3. 参考資料

- ・ 連結売上高・営業利益推移（2000年度～2012年度）
- ・ 設備投資、研究開発費、為替状況（2010年度～2012年度）
- ・ B/S構造の推移（連結）
- ・ 配当金の推移（2006年度～2012年度）
- ・ 四半期連結売上高推移（セグメント別・仕向先別）
- ・ (M) (R) 四半期連結売上高推移（仕向先別）
- ・ 主要生産拠点（グローバル事業展開を支える世界最強のネットワーク）
- ・ アジア地域における取り組み

セグメント別事業概要

モーションコントロール:(M)

ACサーボは、工作機械、ロボット、食品・包装機械、印刷機械等に組み込まれています。半導体や電子部品装置に使われるほか、プレス関連、射出成形機等へも用途が拡大しています。

インバータは、産業機械はもちろん、業務用エアコン・冷蔵庫・洗濯機等や、エレベータ、クレーンといった輸送機器にも使われています。無駄な電力消費を抑え、省エネに貢献する機器として脚光を浴びています。当社は、インバータで培った電力変換技術を生かし、自然エネルギーの有効活用や電気自動車の駆動システム開発に取り組んでいます。



ACサーボ



汎用インバータ



太陽光発電用
パワーコンディショナ



EV用モータドライブ
システム

ロボット:(R)

ロボットは、自動車、電機関連市場を中心に、溶接、塗装、ハンドリング、搬送等の各種工程の自動化に貢献しています。

また、半導体市場ではクリーンロボット、真空ロボットが使われるほか、液晶市場では、ガラス基板搬送にロボットが使われます。

近年は、食品・薬品・化粧品(3品)業界におけるロボットを活用した自動化にも注力しています。



レーザー切断・溶接対応
高精度軌跡ロボット



双腕ロボットによる
製品組立



パラレルリンクロボット

システムエンジニアリング:(S)

システムエンジニアリングは、製鉄所や水処理(上下水)等、皆様の生活に欠かせないプラントシステム設備の安定稼働に役立っています。

また、ポンプ、ブロワなどの風水力機械設備の省エネ対策として、高圧インバータの需要も拡大しています。

2010年からは、高い発電効率を実現する機能や構造が要求される大形風力発電用途向けに、発電機とコンバータを市場投入しています。



上下水道システム



連続鋳造設備



大形風力発電用
発電機とコンバータ

情報:(情報)

情報事業では、当社グループ会社のうち、情報事業関連の安川情報システム(株)および(株)ワイ・イー・データの2社が、ソフトウェア開発、コンピュータ周辺機器事業等を行っております。



ハイパワーレーザー対応スキャナヘッド



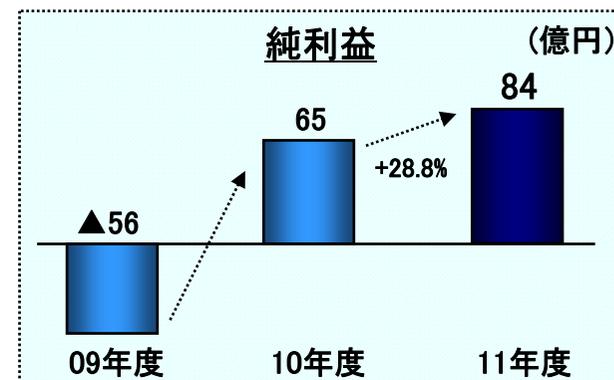
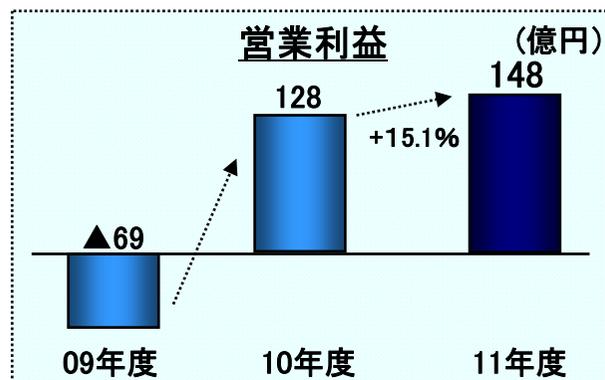
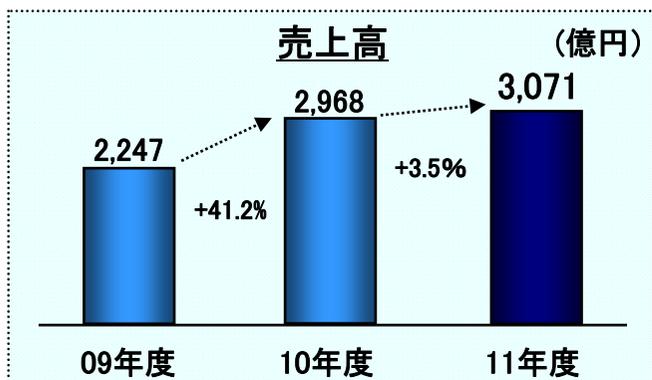
NetSHAKER ProxyBox

1. 2011年度決算について

2011年度連結決算のポイント

11年度上期は震災の影響を克服し業績は好調に推移。下期は中国市場の減速、半導体・液晶関連の低迷、円高定着・マグネット価格高騰により業績悪化したものの、通期では増収増益

	<u>11年度</u>	10年度	<u>前年比</u>	
売上高	<u>3,071億円</u>	2,968億円	<u>+102億円</u>	<u>+3.5%</u>
営業利益	<u>148億円</u>	128億円	<u>+19億円</u>	<u>+15.1%</u>
経常利益	<u>156億円</u>	134億円	<u>+21億円</u>	<u>+16.4%</u>
当期純利益	<u>84億円</u>	65億円	<u>+18億円</u>	<u>+28.8%</u>



2011年度連結セグメント別業績①

(R)ロボットの大幅業績改善により、全社業績は前年比増収増益を確保

(単位: 億円、%)

	11年度		10年度		前年比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	3,071		2,968		+102	+3.5%
(M) モーションコントロール	1,494		1,564		▲70	▲4.5%
(R) ロボット	1,010		838		+172	+20.5%
(S) システムエンジニアリング	355		343		+11	+3.4%
情報	128		141		▲13	▲9.2%
営業利益	148	4.8%	128	4.3%	+19	+15.1%
(M) モーションコントロール	58	3.9%	89	5.7%	▲31	▲35.1%
(R) ロボット	70	6.9%	16	2.0%	+53	+319.2%
(S) システムエンジニアリング	19	5.4%	20	6.0%	▲1	▲7.0%
情報	▲1	▲1.1%	▲3	▲2.8%	+2	—
経常利益	156	5.1%	134	4.5%	+21	+16.4%
当期純利益	84	2.7%	65	2.2%	+18	+28.8%

2011年度連結セグメント別業績②

(M)：前年比減収減益。中国市場の減速、および半導体・液晶・電子部品の低迷により、11年度下期の業績が悪化。円高定着、マグネット価格高騰も収益悪化要因となる。一方、主力製品・新製品への切替は進んだ。

(R)：一般産業用を中心に前年比大幅な増収増益となった。海外は自動車向けを中心に、総じて堅調に推移。国内は、自動車・非自動車向けとも順調に回復。ミックスの改善と採算重視の事業運営が進展。

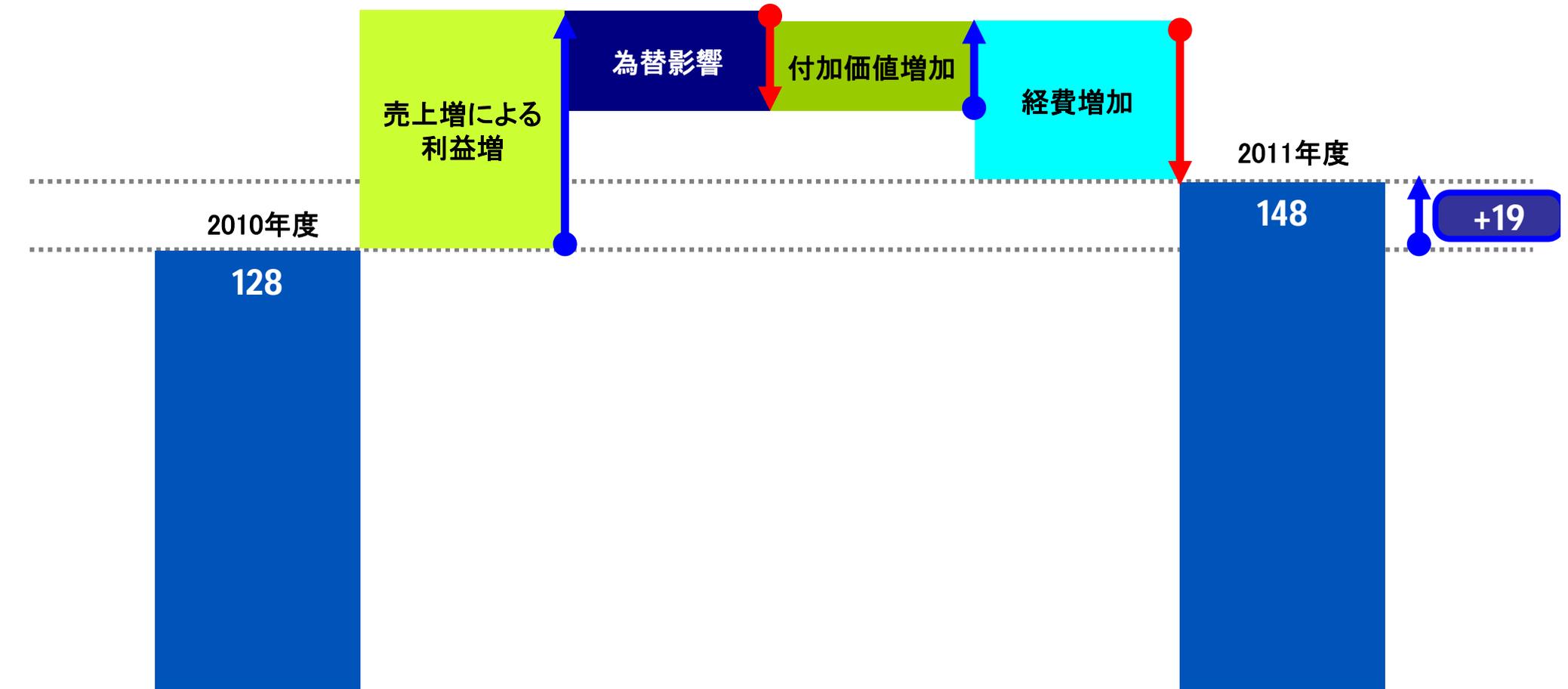
(S)：ほぼ前年並みの売上高・営業利益水準となった。震災影響により西日本地区の水処理関連投資が遅延。また、鉄鋼も低迷。経費削減やコストダウンにより一定水準の営業利益を確保。

(情報)：震災影響により、情報関連投資が遅延となり、前年比売上高は減少。徹底した原価低減活動により、採算性は改善。

(注)表記：(M)＝モーションコントロール (R)＝ロボット (S)＝システムエンジニアリング

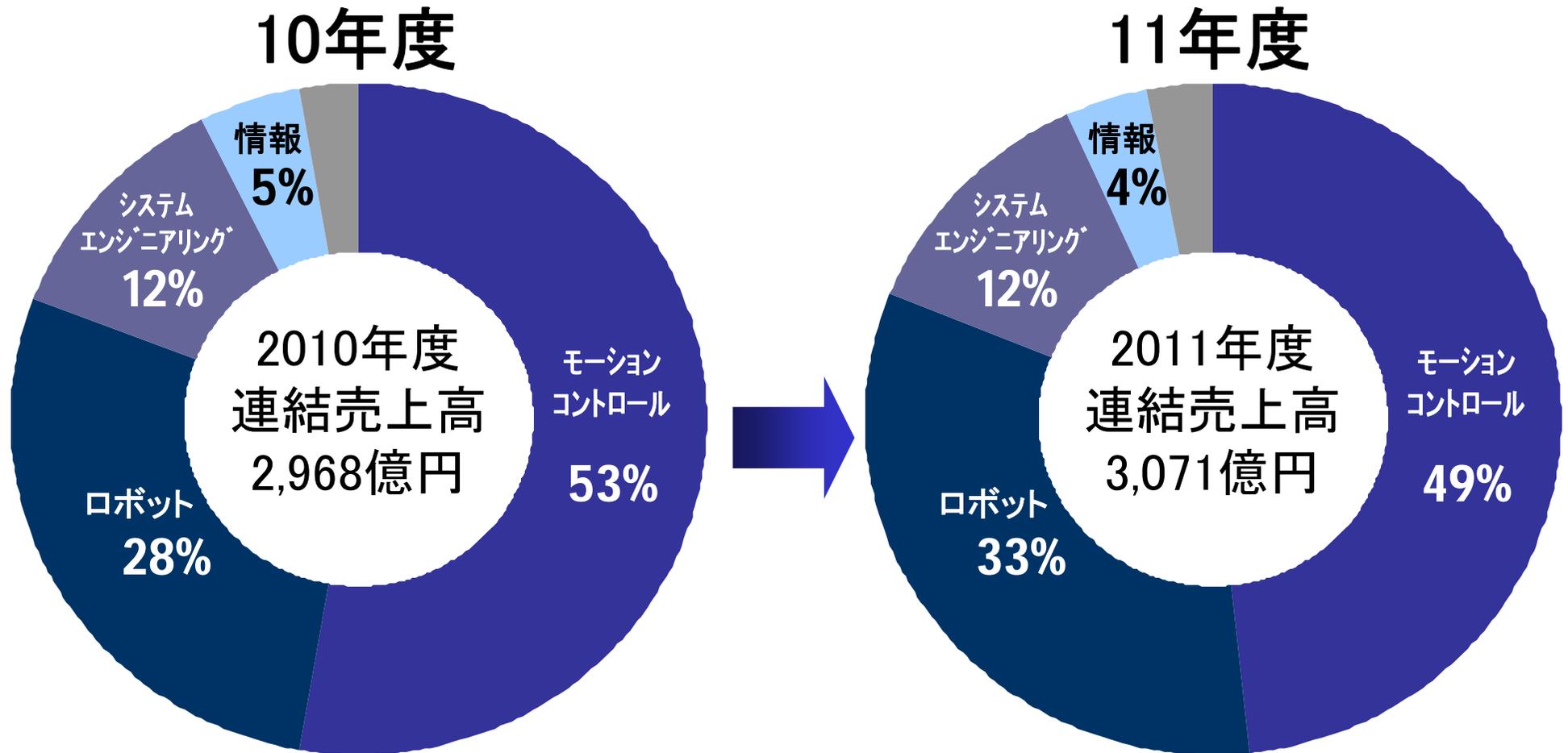
営業利益増減要因分析(2010年度⇒2011年度)

(単位:億円)



事業セグメント別売上高構成比(2010年度⇒2011年度)

(R)ロボットが大きく伸長し、構成比が拡大



仕向先別売上高(2010年度⇒2011年度)

米・欧・中国向けの売上が拡大し、全社の成長を牽引

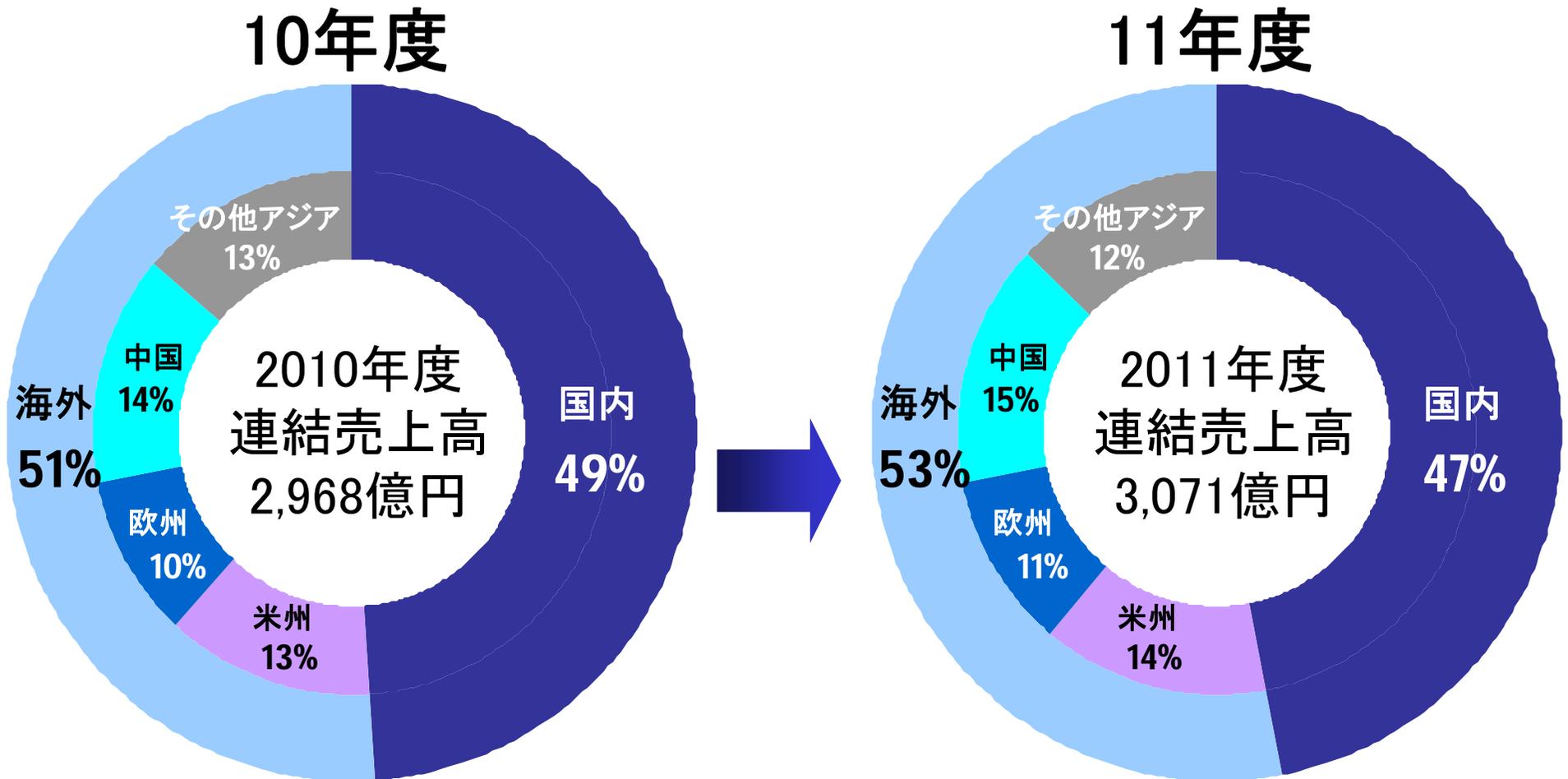
(単位:億円、%)

	11年度	10年度	前年比	
			増減額	増減率
売上高	3,071	2,968	+102	+3.5%
国内	1,430	1,447	▲17	▲1.2%
海外	1,640	1,520	+119	+7.9%
米州	439	387	+52	+13.4%
欧州	339	296	+43	+14.6%
中国	473	428	+44	+10.5%
その他アジア	379	399	▲19	▲5.0%

(注) 内訳には「その他地域(オーストラリア等)」の記載は割愛している。

仕向先別売上高構成比(2010年度⇒2011年度)

米・欧・中国の売上伸長により、海外売上高構成比は53%(過去最高)に拡大



2011年度における主な取り組み①

成長市場・注力市場への重点投資と採算改善

◆受注確保施策

①伸びる地域・市場、伸ばす市場への重点投資

- 中国・アジアにおける拡販体制の強化
 - ・瀋陽工場の生産能力拡大(2011年8月第二工場着工)※12年5月竣工予定
 - ・中国ロボット合弁会社の子会社化(2011年9月)
 - ・グループ商社 安川通商の設立(2011年10月)
 - ・中国統括会社の設立(2012年1月)
 - ・インド子会社2社(モーションコントロール・ロボット)の統合を決定(2011年12月)※12年4月統合予定
- ロボット事業拡大のための拠点強化・拡充
 - ・米国ロボット事業部門の拠点新設・統合(2011年6月)
 - ・中国(上海)ロボットシステム工場の稼働(2011年7月)
 - ・関東ロボットセンタの設立(2011年9月)
 - ・中国生産子会社の設立を決定(2011年12月)※13年3月生産開始予定
 - ・中国(上海)ロボットテクニカルセンタ開設(2012年1月)
 - ・南アフリカ出資会社の子会社化(2012年3月)
 - ・欧州ロボット事業部門の拠点新設・統合(2012年8月予定)
 - ・八幡西(本社)事業所ロボット第2工場新設(2013年夏稼働予定)

②主力製品・新製品による拡販

- 主力製品への切替促進 (ACサーボ「Σ-V」、インバータ「1000シリーズ」、等)
- 新製品投入、拡販

2011年度における主な取り組み②

◆新規事業展開の加速

環境エネルギー事業製品ラインナップの拡充

- ・大形風力発電用「Enewinシリーズ」発電機
- ・太陽光発電用パワーコンディショナ「Enewell-SOL」(産業用・住宅用)
- ・電気駆動システム「QMET-II」

◆超円高対策の強化

- ・海外生産(中国・インド)の拡大
- ・海外調達(海外現地調達、海外からの部品調達)の加速

◆マグネット価格高騰への対応強化

- ・マグネット価格高騰影響のミニマム化
- ・販売価格の値上げ
- ・レアアースの使用量を削減した新型モータの開発
(2012年度上期に投入予定)

◆経費運営、投資の更なる効率化

- ・下期期初から、グループ会社を含めた経費運営方針を徹底
- ・投資の更なる効率化

◆東日本大震災の影響および対応

- ・被災顧客、被災地の復旧・復興支援
- ・生産維持に対する影響は限定的(部品調達網は11年6月末復旧)

◆タイ大洪水に伴う被災顧客の復旧支援

2. 2012年度通期見通しについて

2012年度の事業環境見通し(2011年度下期⇒2012年度上期)

12年度の市場環境は不透明ながら総じて回復傾向

(注)2011年度下期⇒2012年度上期

市場環境	半導体	→	海外半導体メーカーを中心に投資拡大。緩やかな回復基調
	液晶	→	大型パネル投資は停滞。スマートフォン、タブレット端末用中小型高精細パネルおよび有機EL向け設備投資は堅調
	自動車	→	中・韓・タイ・インドは堅調。日・米・欧は順調な回復を継続
	鉄鋼	→	改修工事は端境期を脱するも、設備投資全般の動きは鈍い
	環境エネルギー	→	省エネルギー、新エネルギーに関する需要は、震災復興、再生可能エネルギー全量買取制度導入(7月)により、拡大を期待
地域動向	米州	→	設備投資の回復基調が続き、過去ピークを越える
	欧州	→	まだら模様ながら輸出型企業は好調。欧州金融不安が継続。欧州圏内の減速懸念
	中国・アジア	→	中国は緩やかな回復傾向であり、本格回復は7月以降の見込み。その他アジアは総じて増勢傾向。
	日本	→	復興需要、自動車等の生産回復などが好転要因。中国・欧州を中心に海外需要の不透明感が残る

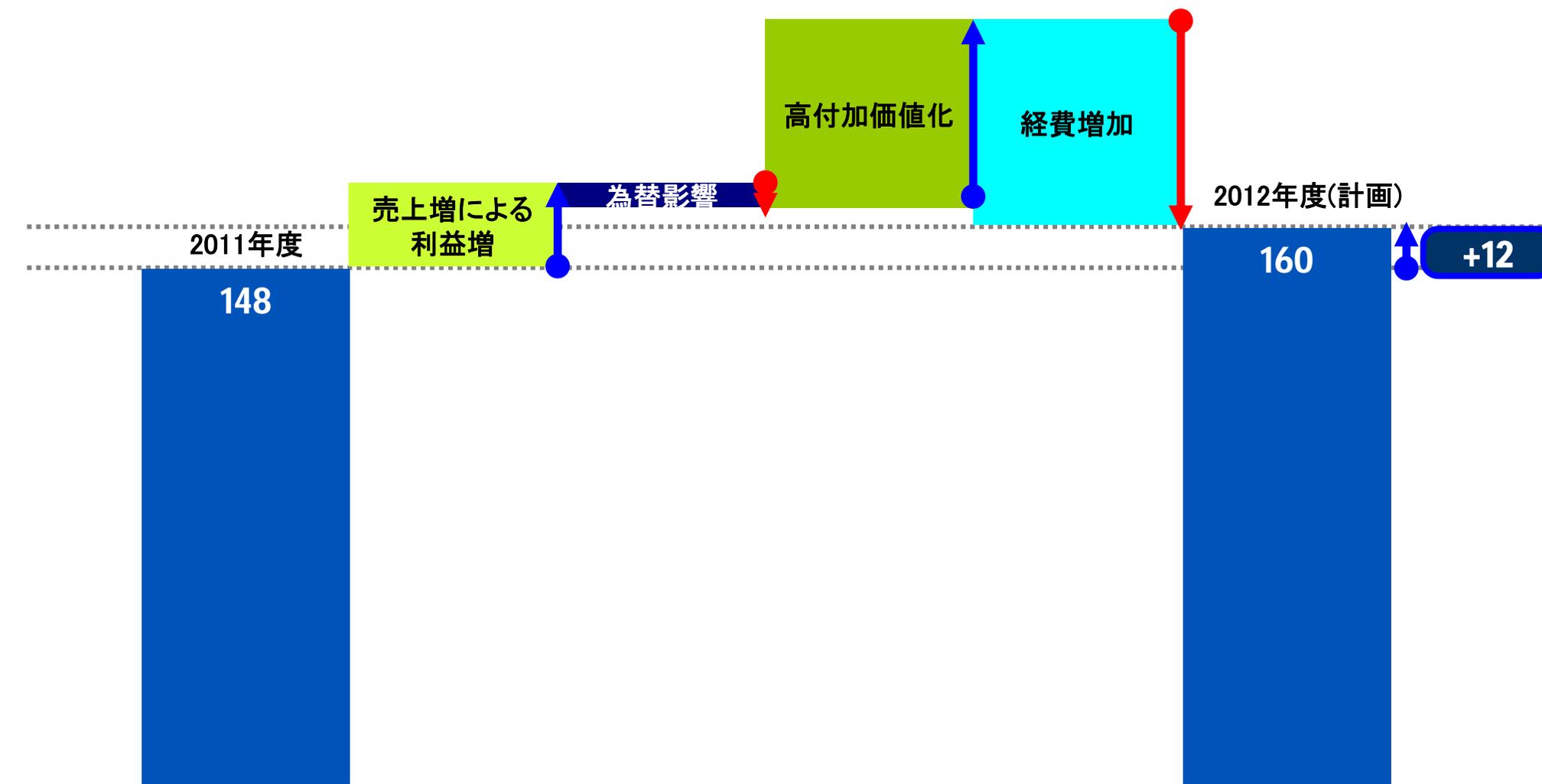
2012年度連結業績見通しのポイント

不透明な市場環境の中で、受注を確保するとともに、収益性の改善や経費・投資の効率的運営により、持続的な増益を予想する

	<u>12年度 計画</u>	11年度 実績	<u>前年比</u>	
売上高	<u>3,100億円</u>	3,071億円	<u>+28億円</u>	<u>+0.9%</u>
営業利益	<u>160億円</u>	148億円	<u>+11億円</u>	<u>+8.0%</u>
経常利益	<u>160億円</u>	150億円	<u>+37億円</u>	<u>+2.4%</u>
当期純利益	<u>90億円</u>	86億円	<u>+5億円</u>	<u>+6.7%</u>

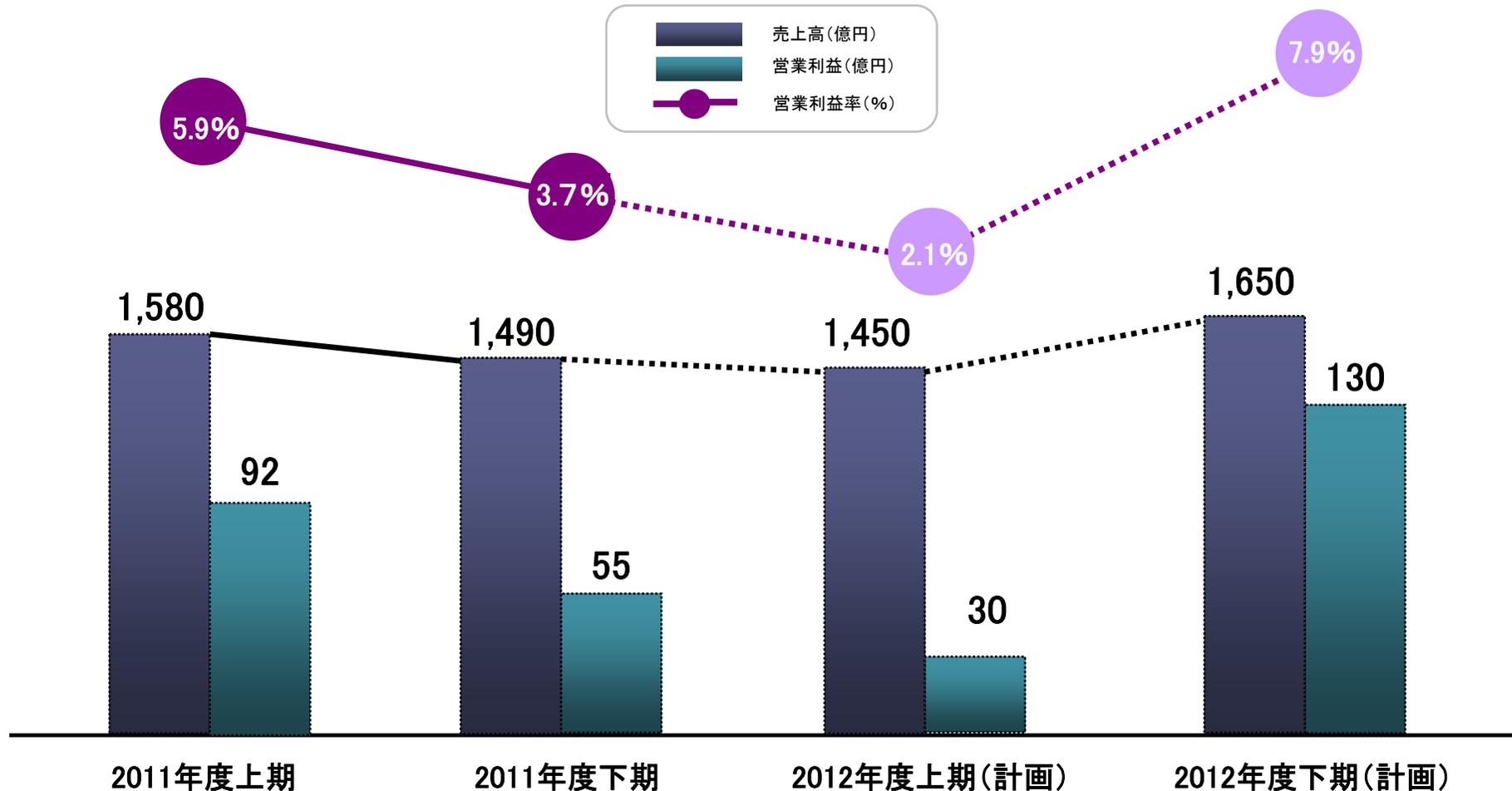
営業利益増減要因分析(2011年度⇒2012年度)

(単位:億円)



半期別売上高・営業利益推移(2011～2012年度)

12年度上期は、11年度下期と同様に経費・投資運営に留意しつつ、受注確保・コストダウンを加速する。12年度下期で収益性を大幅に改善する



2012年度における重要方策①

1) 量の確保

好調な市場、回復する市場において受注・売上を拡大する

- ・ 半導体・電子部品などのエレクトロニクス関連、工作機械などの機械装置向けの受注拡大
- ・ 新規市場・分野への積極的な開拓
- ・ 米国、中国、日本およびアジア・新興国を中心に市場の深耕
- ・ 販売力・生産力・開発力の継続的な改善・強化

2) コア事業の利益率向上

- ・ 円高対策の加速（中国生産・海外調達の拡大）
- ・ マグネット価格高騰対策の加速（価格転嫁、省レアアース対応製品の開発・市場投入）
- ・ 高付加価値化の取り組み強化（価格面、コストダウン等）
- ・ 経費構造の見直し（構造改革推進室の設置、K30プログラム）
- ・ リソースの選択と集中（コア事業の運営効率化⇒新事業・新領域へのシフト）

2012年度における重要方策②

3) 中期的な方策・取り組み

- ・新規事業への資源重点投入
 - 環境エネルギー事業のコア事業化推進
 - ロボティクスヒューマンアシスト事業の事業化探索
 - 新規事業の探索
- ・脱レアアース対応製品の開発
- ・次期主力製品の開発推進
- ・ロボット新工場設立(日本・中国)
- ・本社事業所の再編(ロボット村構想)

参考資料

2000年度～2012年度 連結売上高・営業利益推移



設備投資、研究開発費、為替状況

◆設備投資の状況（連結）

（単位：億円）

	2010年度	2011年度	2012年度計画
設備投資額	66.6	99.1	130.0
減価償却費	70.6	76.1	85.0

◆研究開発投資の状況（連結）

（単位：億円）

	2010年度	2011年度	2012年度計画
研究開発投資	97.2	103.9	110.0

◆為替状況（単独）

	2010年度		2011年度		2012年度計画
	上期	通期	上期	通期	想定レート
対 米ドル	89.61円	86.07円	80.43円	79.29円	80.00円
対 ユーロ	114.85円	113.26円	114.17円	109.64円	105.00円

(注)期中平均レート

B/S構造の推移(連結)

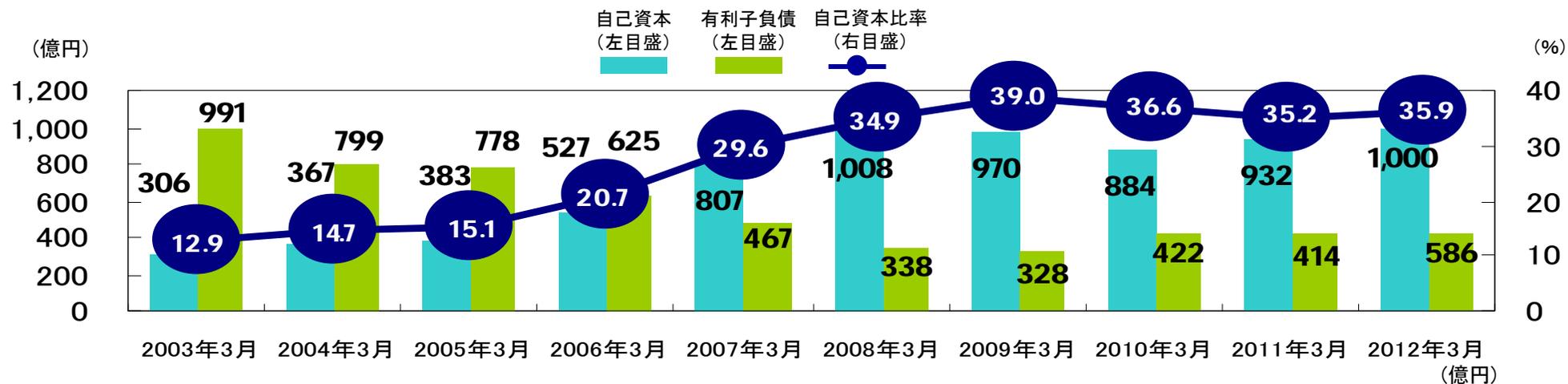
2011年3月期

- 自己資本比率 35.2%
- 自己資本 932億円
- 有利子負債 414億円
- D/Eレシオ 0.44
(ネットD/Eレシオ) 0.32
- 棚卸資産 580億円
(回転月数) (2.3ヵ月)

2012年3月期

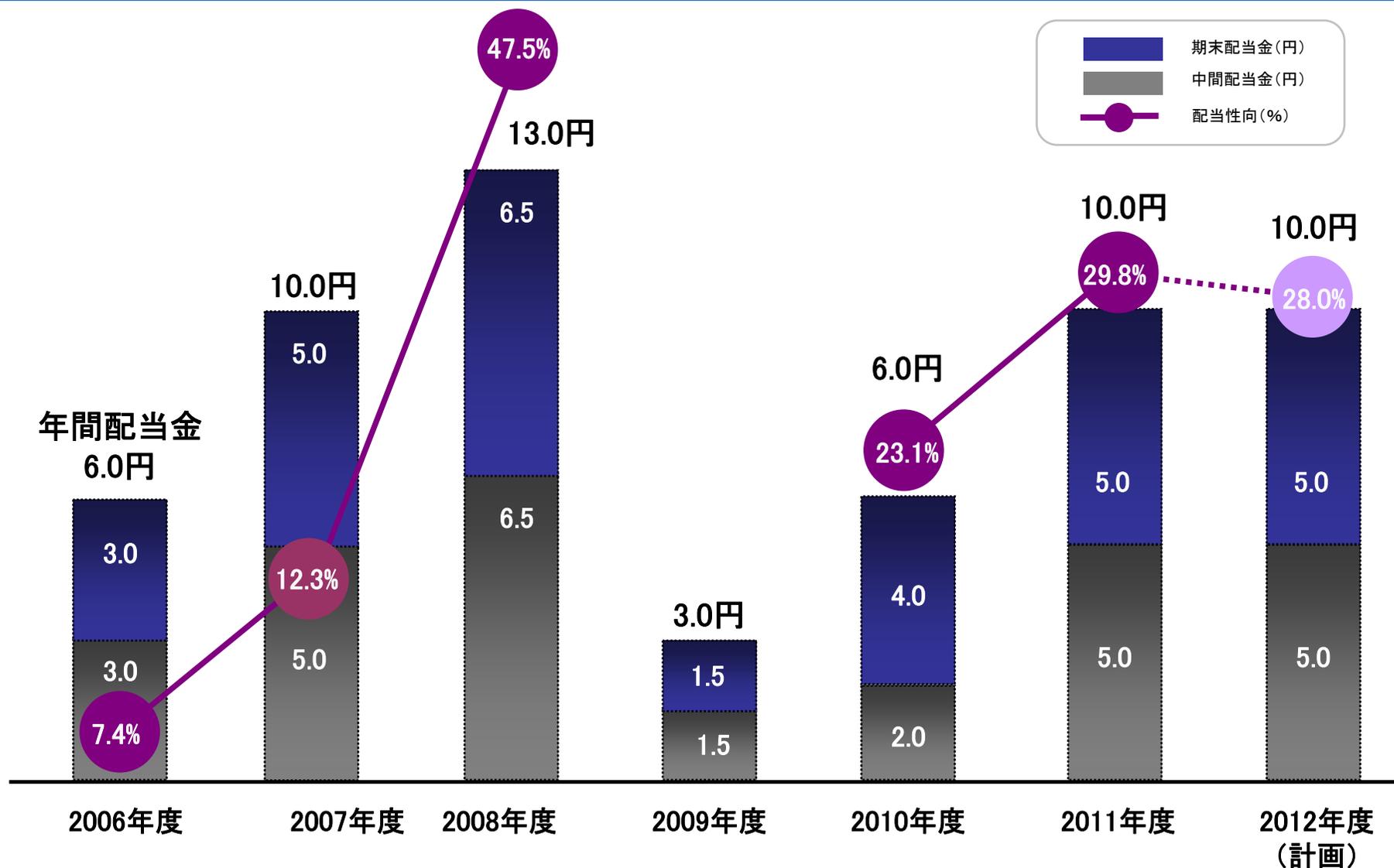
- 自己資本比率 35.9%
- 自己資本 1,000億円
- 有利子負債 586億円
- D/Eレシオ 0.59
(ネットD/Eレシオ) 0.39
- 棚卸資産 638億円
(回転月数) (2.5ヵ月)

※棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用



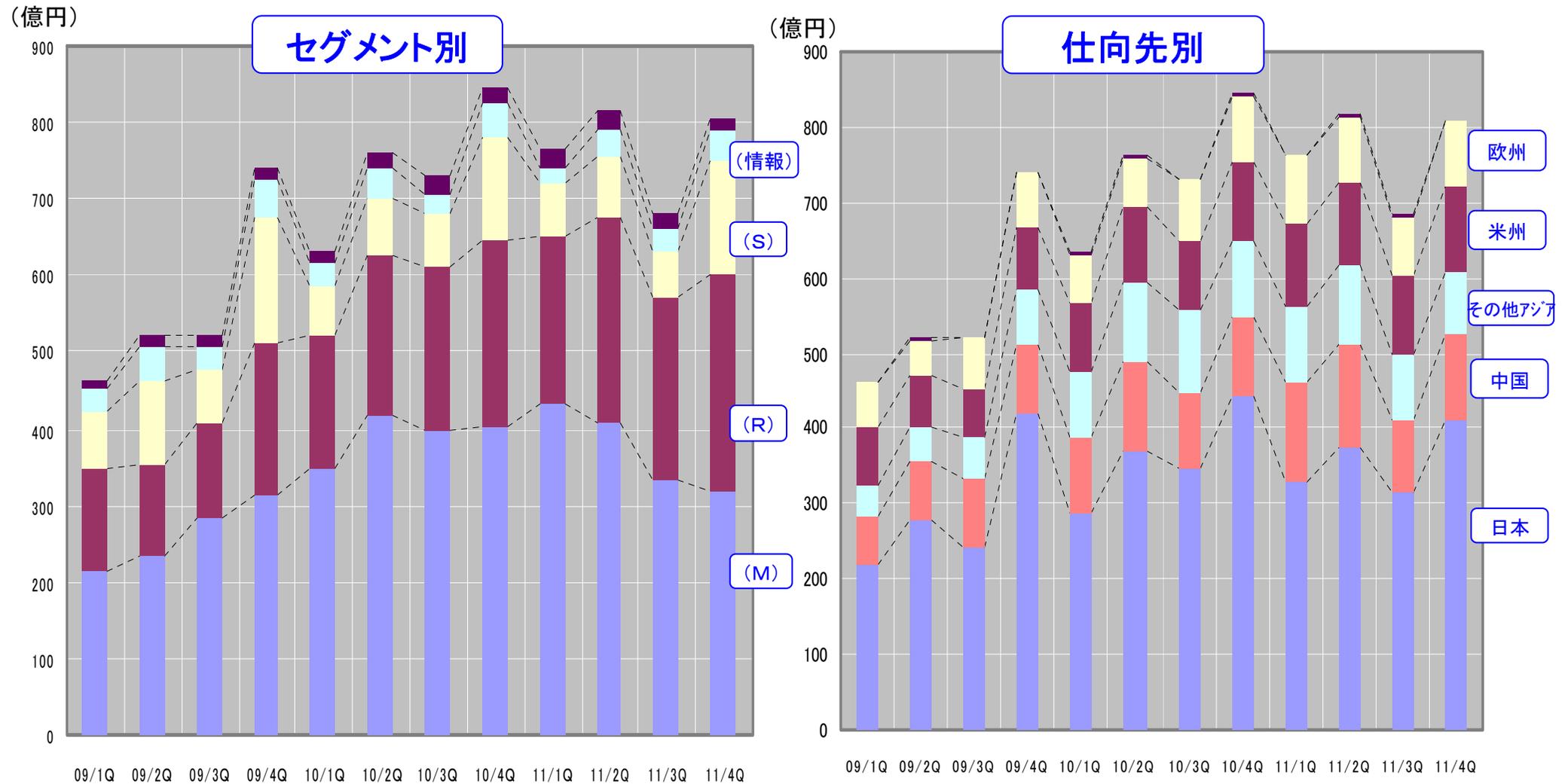
	2003年3月	2004年3月	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月	2010年3月	2011年3月	2012年3月
営業CF	84	185	57	187	149	176	124	40	24	63
投資CF	▲19	11	▲22	97	▲61	▲99	▲106	▲64	▲67	▲118
フリーCF	64	196	35	89	88	77	17	▲24	▲42	▲54

配当金の推移（2006年度～2012年度）



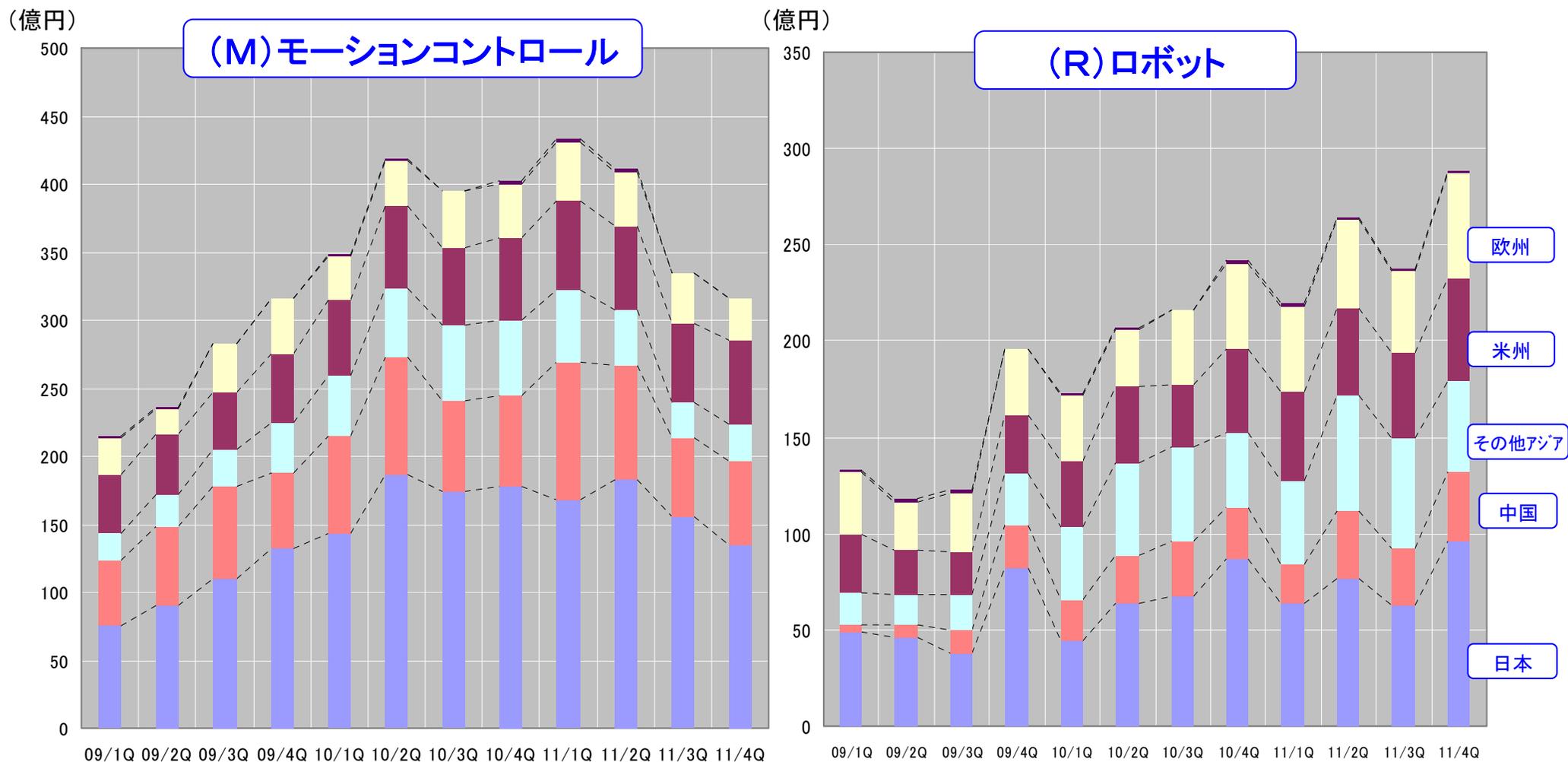
※2009年度は当期純損失のため、配当性向は算出していません。

四半期連結売上高推移(セグメント別・仕向先別)



(注)表記:(M)=モーションコントロール (R)=ロボット (S)=システムエンジニアリング

(M)(R)四半期連結売上高推移(仕向先別)



(注)表記:(M)=モーションコントロール (R)=ロボット

主要生産拠点 (グローバル事業展開を支える世界最強のネットワーク)



アジア地域における取り組み

